

# かかりつけ薬剤師・薬局の普及推進に向けた 薬剤師の新しい役割に関する調査研究

星薬科大学 薬学部 教授 細江 智夫

## はじめに

医療 DX において、電子処方箋などの技術進展が目覚ましく、医療や介護において新しい IT 環境やその適用範囲の調査が必要となっている。このような状況を踏まえ、かかりつけ薬剤師・薬局の普及推進に向けた薬剤師の新しい役割に関する調査研究を行った。

## 1. 調査研究の背景と目的

高齢化が進む中で、国民の健康管理の増進、医療ケアの充実を推進するための薬局薬剤師の役割について、2015 年 10 月「患者のための薬局ビジョン（厚労省）」が作成、公表された。その中で「門前」から「かかりつけ薬局」、そして「地域包括ケアシステム」への貢献が提唱され、かかりつけ薬局が持つべき機能として、① 服薬情報の一元的・継続的把握、② 24 時間対応・在宅対応、③ 医療機関等との連携、の 3 つが掲げられた。そして、薬局が充実・強化すべき機能として、健康サポート機能と高度薬学管理機能が挙げられ、2025 年までにすべての薬局を「かかりつけ薬局」にする地域包括ケアを念頭に置いたアクションプランが示された。

さらに、近年の DX 化の進捗を踏まえ、2022 年 7 月に「薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ(厚労省)」の報告書が公表された。2023 年 1 月から電子処方箋システムの本格的導入を機に、薬局 DX 化が本格的に始動し、ビジョンの実現とともに高齢者へのサポートも「かかりつけ薬剤師」に期待されている。

その一方で、国民の健康管理・増進や地域包括ケア推進のためには、かかりつけ薬局・薬剤師の活躍の場を広げていくことが不可欠であるにもかかわらず、「かかりつけ薬局・薬剤師」が、患者やその家族に十分理解されていない状況がある。健康管理が一般国民の重要な関心事項でありながら、かかりつけ薬局への関心や健康サポート薬局への期待が少ない原因を探り、かかりつけ薬局の拡大、健康サポート薬局の認知と活用を広げていくための一助とすることが本調査研究の背景と目的である。

## 2. 調査研究の概要

本調査研究では、(1)薬剤師、介護施設関係者、薬学生の視点から薬局の現状と今後の社会に果たす役割、(2)現在推進されている「かかりつけ薬局・薬剤師」の機能についての長所および問題点、(3)コロナ禍で急速に拡大したリモートコミュニケーション環境や情報機器などの情報環境と、電子カルテおよび電子処方箋などの情報コンテンツの利用に関する将来像について、薬局薬剤師、介護施設関係者、薬学生等を対象にアンケート、ヒアリング等の手法を用いて、調査研究を行った。

### 3. 調査研究の結果（まとめ）と今後の課題

#### (1) 調査研究結果（まとめ）

国民の健康を維持増進のための情報収集には医療 DX が不可欠であり、使いやすく、かつ費用が適正な DX アプリ、ネットワーク環境の整備が必要である。ネットワークは簡素な分散型なものを志向すべきで、ブロックチェーンなどを利用したセキュリティの確保も考えられる。重要なことは、利用者がメリットを感じて、広がっていくことである。

今回のアンケートで、薬剤師に占めるかかりつけ薬剤師の割合は 5 割程度である一方、かかりつけ薬剤師の決まっている国民の比率は、10%以下であった。これは薬剤師がかかりつけ薬剤師になることに積極的でないというよりも、一般の国民がかかりつけ薬剤師を選ぶインセンティブが少ないと考えられる。多くの薬剤師はかかりつけ薬剤師として、国民に寄り添っていききたい気持ちはあるが、時間的余裕がないということもわかった。また、かかりつけ薬剤師に対するプライバシーやセキュリティの問題への懸念も判明した。これらの点を解消するには、一方的にかかりつけ薬局や薬剤師になるのではなく、薬剤師と患者との関係において、かかりつけ薬剤師を規定していくことが大切であり、この中でお互いの信頼関係が築けることになると思われる。かかりつけ薬局に期待される 24 時間対応や細かな服薬相談について、国民すべてに薬剤師をあてがった場合、薬剤師一人当たり 400 人の患者対応が必要となるため、ICT を活用した薬局 DX 無しには達成できない。すべての国民がかかりつけ薬剤師を持ち、健康に関するアドバイスを容易かつ安価で受けられるようにするためには、簡単で使いやすく、低コストの薬剤師 DX の開発が不可欠と言える。

また、かかりつけ薬剤師としての資格維持には、生涯学習の講習会への参加や、社会貢献事業への参加が求められており、薬剤師にとって相当の負担になっていることが明らかになった。特に、社会貢献事業への参画については、適当な貢献事業が少ないことが、品川区薬剤師会への個別ヒアリングからも明らかになった。

#### (2) 今後の課題

今回の調査研究では、以下の課題が明らかになった。

##### ① かかりつけ薬剤師を支援する実用的な DX システム

薬剤師の DX 支援環境を着実に整備するために、今後の「地域包括ケアシステム」の在り方や医療 DX の方向性を、患者や家族、薬剤師、介護士の立場から再整理し、現状の課題や改善点を調査・検討することが必要である。

##### ② DX を加速する支援環境の調査

薬剤師に対するアンケート結果によれば、薬剤師のニーズと合致する DX が必ずしも進んでいないことが明らかとなった。そこで、薬剤師が必要とする DX 支援環境の調査し、課題を速やかに解決するための具体的な方策や改善策を検討する必要がある。

##### ③ 患者と薬剤師とのコミュニケーション支援ツールの調査・検討

医療 DX を使い、国民一人一人が自らの健康管理を進めていくことが重要である。その中で薬の知識やヘルスケアを推進する薬剤師の役割は重要である。その際、かかりつけ薬剤

師が必要とする具体的なコミュニケーション支援ツールの機能や問題点、課題やコミュニケーションシステムの可能性を薬剤師および介護施設関係者の協力を得て調査することが必要である。

#### ④ かかりつけ薬剤師によるパーソナルヘルスケア（PHC）支援に関する調査・検討

地域ヘルスケアにおけるパーソナルヘルスケア（PHC）を支援する役割や機能の拡充求められている中で、その推進に必要な薬学知識と経験を有する薬剤師の存在は重要である。「かかりつけ薬剤師・薬局」がそのポテンシャルを活かし、パーソナルヘルスケア（PHC）を支援していく具体的な課題を調査し、かかりつけ薬剤師による PHC 支援の役割や可能性を検討する必要がある。

#### ⑤ 薬学生に対する医療 DX 教育に関する調査・検討

薬学生へのアンケート結果によれば、薬学生の医療 DX に関する基礎知識の不足がうかがえた。医療 DX の観点から薬学部の教育プログラムを検証し、その課題の抽出・整理を行い、医療 DX に関する新たな教育プログラムを検討・提案する必要がある。

本調査研究による効果として、以下の事項が挙げられる。

- ① 電子処方箋システムが本格的な導入に伴う薬局業務の変化や薬局以外の関係者への波及効果について、事例を収集、整理できるとともに、問題点や今後の課題を明らかにした。
- ② かかりつけ薬剤師による高齢者に対する医療 DX 普及・指導の可能性について、事例収集や分析ができるとともに、今後の課題や展望を明らかにした。
- ③ 患者や家族、介護施設の「かかりつけ薬局・薬剤師」に対する潜在的ニーズ・要望を調査できるとともに、かかりつけ薬局・薬剤師の普及に向けた今後の課題や展望を明らかにした。
- ④ 医療 DX に対する薬学生の意識を調査できるとともに、「未来のかかりつけ薬局・薬剤師」の課題や展望を明らかにした。

今後は、これらの成果を踏まえて、薬局においては薬剤師が地域市民の健康増進や維持により活躍するための DX 環境整備へのサポート、また大学の教育現場においては薬学生への医療 DX 教育の導入・強化を図り、医療 DX に対して前向きに取り組むことができる学生の育成に努めたい。